

# 中谷の南朝秘史①

## —南北朝時代の鏡野町—

中谷の県道82号鏡野久世線を北上していると、「近衛殿」(写真1)や「関白塚」などとよばれる一見都をイメージしそうな場所があります。忠にまつわる秘められた伝説が残されています。

ここには南北朝時代の関白・近衛経忠が奈良の吉野(南朝)と京都(北朝)の2つに分かれ、それぞれが正統性を主張し争っていた時代で、この間にはそれぞれが天皇を擁立し、別々の元号を用いていました。年代

ています。

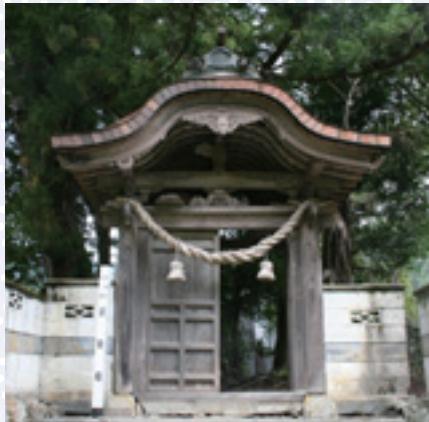


写真1 近衛殿(町指定文化財)

南北朝時代とは、鎌倉時代の後、皇室が奈良の吉野(南朝)と京都(北朝)の2つに分かれ、それぞれが正統性を主張し争っていた時代で、この間にはそれぞれが天皇を擁立し、別々の元号を用いていました。年代

中谷には、南朝の家臣で関白の役職を務めた近衛経忠が中谷の弘秀寺に入り、北朝を倒す計画していまして、敵の襲来を受けこの地で亡くなつたという伝説があります。

また、中谷には「文中三年」(一三七四)の南朝の元号が刻字された鰐口も存在します。現在中谷神社が所有し、鏡野郷土博物館に寄託されている「藤宮の鰐口」(町指定文化財・写真2)がそれです。このことからも、中谷は南朝勢力の下にあつたことが想像できます。

それでは、このような伝説が残る背景にはどのようなことがあつたのでしょうか?当時の文献から見ると、延文五年(一三六〇)には美作守護赤松貞範が室町幕府から西大野郷(現在の大野地区)の土地を褒美として与えられている書状や、応安六年(一三七三)に三代将軍足利義満が箕浦千俊に西香々美莊内の久保田(現在の公保田)の地頭職(土地の管理支配権)を与える書状など、北朝を支持する室町幕府の支配下であつたことを窺わせる史料が残され



写真2 藤宮の鰐口

裏面の年号  
(文中三年)



写真3 上齋原神社神石  
(「康安元」の年号があります)

これらから推定すると、現在の鏡野町域では北朝方の勢力が強かつたことが想像できます。その中で南朝を支持していた中谷地区の勢力は周辺地域と敵対している状況であったのでしょう。こうしたことが背景となり、近衛経忠の悲劇の伝説につながる出来事が起つたのかもしれません。それでは近衛経忠とはどのような人物であったのか、そして中谷に伝わる伝説の実態については次号で説明いたします。

参考資料:『鏡野町史』史料編・通史編、『苦田郡誌』、『鏡野町の文化財』、『鏡野風土記』

お問い合わせ先  
生涯学習課 団体  
電話(0866-52-2212)